

第9回庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成31年3月20日（水） 13：30～15：30

2. 開催場所 庄原市役所 5階 第3委員会室

3. 出席委員 西村 和之 委員長・藤谷 善久 副委員長・西田 学 委員
藤谷 健司 委員・本平 正宏 委員

4. 欠席委員 胡子 悅子 委員・住田 鉄也 委員
松田 智仁 委員・八谷 るりこ 委員

5. 出席職員 企画振興部企画課長 東 健治
企画振興部企画課企画調整係長 足羽 幸宏
企画振興部企画課企画調整係 原田 淳司

6. 傍聴者 0名

7. 会議次第 別紙のとおり

8. 会議経過 別紙のとおり

第9回 庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会 次第

■日時 平成31年3月20日（水）13：30～
■場所 庄原市役所 5階 第3委員会室

1. 開会

2. 議事

（1）庄原市のデータの説明について

- 資料1…庄原市の将来推計人口
- 資料2…年代別の施設利用状況と存続希望状況
- 資料3…庄原市の公共施設の状況

（2）今後の庄原市の公共施設のあり方を考える上での留意点について ■資料4 ■資料5

3. 閉会

会議経過

1. 開会 東企画課長 挨拶

2. 西村委員長 挨拶

3. 議事

(1) 庄原市のデータの説明について 資料1・資料2・資料3

委員長：本来この委員会では、市街地全体の施設について個別の施設のあり方を出すべきであったが、大規模施設である「庄原市民会館・庄原自治振興センター」の検討に時間を要し、全ての施設の方向性を出すには至らなかった。よって、前回と今回の委員会で、今後公共施設の整備、再編をどのように考えて、どのように引き継いでいくのか、委員の皆様にご議論いただきたい。市街地の公共施設全体のあり方の大筋を決め、それに則って個別の施設をどうするのかという考えになると思う。その大筋を本日の委員会で議論したいと考えている。まずは、前回要望した施設等のデータについて事務局より説明いただきたい。

事務局：資料1庄原市の将来人口推計

資料2年代別の施設利用状況と存続希望状況

資料3庄原市の公共施設の状況

を資料に基づき説明

委員長：資料2について、施設を利用はしていないが存続は希望するという矛盾を含んだものもある。現在避難所のあり方について別の委員会で議論しているが、存続希望が多い施設であっても存続しない、逆に利用は少ないが周辺人口が多ければ施設を残すなど、アンケートどおりにはいかない部分も出てくることは認識いただきたい。

委員：集会所の地元移管について、計画等で期限はあるのか。

事務局：はつきりとした計画としての期限はないが、地元協議が整い次第順次移行するようになっている。ただし、地元が受けるためには登記の関係上法人格が必要で、すんなりとは行かない状況である。

委員：自治振興施設について、総領の施設数がかなり多いと感じる。自治振興会館とは何か。

事務局：総領の旧自治振興区単位のセンターである。

委員：自治振興会館の下に自治会の集会所があるように思える。そこまで整備していたのかと改めて驚いている。

事務局：合併して 13 年経つが、各地域での施設の整備状況に差があり、統一していくたいが、施設整備時の経緯等もあり、進まない状況である。

委 員：自治振興会館は地元移管しなければならない施設ではないのか。

委員長：地元移管すべきだが、進んでいない現状があることを様々な機会を捉えて示すことが大切である。

委 員：難しいだろうが早めに移管すべきである。

事務局：元々が自治振興センターなので、施設の規模が大きすぎる問題もある。

委員長：人口に対して過大な施設がある状態だと思う。それにより市の施設管理費が膨れ上がることとなる。施設を減らさないと市が持たないということを改めて認識いただきたいと思う。

(2) 今後の庄原市の公共施設のあり方を考える上での留意点について 資料4 資料5

委員長：庄原市民会館・庄原自治振興センター以外の市街地の施設については結論を出していないが、大きな方針を出してそれに基づいて個別の施設の方向性を議論すべきである。その時また個別の委員会を立ち上げて議論するのか、市が単独で決めていくのか、色々パターンがあると思うが、その考え方を整理する上での留意点を事務局がまとめたので、説明をお願いしたい。

事務局：欠席の松田委員から提出された書類を資料5として最初に説明。

次に欠席の住田委員の口頭による意見を説明。「平成 19 年度に凍結となった老人福祉センターについて、今後の人口動態を見れば高齢者が増えることが予想され、その拠点施設の整備は必要であると考えるため、市街地の公共施設の再編時には、他の機能との複合化をはかりながら最初に整備すべきである。」

最後に事務局案として資料4を説明。

委員長：松田委員からの意見は、総合管理計画の遵守と最終的には市街地の公共施設は統合をはかるべきであるという意見だったと思う。また、事務局案としては、大規模かつ中核施設は、市単独で決めるのではなく、市民等から意見を求める上で統廃合等を進めるべきであるという案だと思う。忌憚のないご意見をお伺いしたい。

委 員：事務局案は可も無く不可もない感じである。人口減少対策に繋がる重点的な施設については、数字的価値だけではなく、政策的に思い切った施策を実施すべきである。県大生や高校生などの学生が集まる図書館のような学習施設を新たに設置し、若者が集まる施設を整備すべきである。県大生が市内中心部に集まるものが必要である。それを整備するのに、20~30 年も待っていては遅すぎで、今すぐ整備する必要があると思う。施設を使い切ることも当然大切だが、建物を中心に考えるのではなく、ニーズや政策を中心に考える必要もあると思う。図書館、三軒茶屋、楽笑座は何らかの方法で活用を

考えるべきである。人口が減るので施設を減らす考えも大事だが、全てがその考えではなく、人口減少対策に必要な施設は、大金を掛けてでも整備していくという考え方必要だと思う。

委員長：この委員会は公共施設のあり方を検討する委員会である。よって統廃合だけではなく、新たな整備も考えるという選択肢も書き加えるべきである。総合管理計画はいかに減らすかが主題となっている。それはとても大切だが、今のような意見や視点も重要である。また、総合管理計画自体を一定期間が過ぎれば状況が変化するため、必ず見直しが必要となる。

委 員：その他の考慮すべき事項①について、いきなりこれが一番に来るのはいかがなものか。また、基本的な考え方について、統廃合の推進と施設の適正化を推進するなどの文言を入れるべきである。

事務局：合併前の施設は旧市町がフルセットで施設を作っているため、統廃合等の改善が必要であると考えている。ただし、総合管理計画でも必要な施設を新設しないとはしておらず、複合化や多機能化を推進すると記載している。

委員長：統廃合と複合化等の整備を併記する必要がある。その他の考慮すべき事項①については、色々な捉え方がある。地域的な経緯や背景があるとも考えられるが、補助金等の関係で予算の出所が違うこと、費用の返還等を考慮しなければいけないとも読める。表現が微妙である。その他の考慮すべき事項についての順番は、⑥⑤②④③①にして、⑦として新たな付加価値のあるものを整備する等を加える。または⑥に一文加えることにしてはどうか。ただ削減するだけではなく、新たな価値を生み出す施設の整備が必要であることは付け加えて、市街地の活性化を維持することも入れていただきたい。

委 員：最終案の調整は委員長一任でよいと思うがいかがか。

他の委員：全員賛同。

委員長：どのような形とするか、事務局と調整して決めていきたい。結果については郵送する。2年間に亘りご議論いただき、深く感謝申し下げる。今回の提言をもってこの委員会を終了したいと思う。

15：30 終了

以上、議事の経過ならびにその結果を明確にするため、本会議録（摘要）を作成し、会議録署名人が次に署名する。

平成31年3月20日

会議録署名人 西木十朱つえ

会議録署名人 藤谷善久

